



産業都市の再発見—社会調査から見えるもの—



丹辺 宣彦 (社会学)

この原稿を読んでいる人は、東海地域の高校に通っている人も多いでしょう。この地域の都市は、世界的に見てもユニークな特徴をもっていることを知っていますか？ 発展途上国との厳しい競争に晒され、現在先進国では軒並み製造業が工場を都市部から農村、海外へと移転させています。雇用が安定していた工場での仕事がなくなると、都市から中間層が働く場がなくなり、階層格差が拡大して税収が減るため、いろいろな社会問題が起きることが多くなります。今回の大統領選でもアメリカから製造業と雇用が失われたことが大きな争点となっていました。

ところが東海地域では、自動車産業を支える多様な製造業が集積し、半世紀余り発展・存続しています。当初は開発にともなう緊張や対立がありましたが、現在では地方から働くために来住した人たちが勤め上げて退職期に入っています。中流世帯が多い地区が形成され、勤務先近くに長く住み続けるため地域とのつながり(地縁)が強くなり、男性のまちづくり参加も活発になっています。外国人住民を多数迎えているグローバル化先進地域としての特徴も見逃せません。工場が郊外に立地している都市は、中心に繁華街もなく地味そのものですが、日本の経済を牽引する役割を担っています。もちろん若い世代の自動車離れも進み、コロナ禍のなか今後については予断できません。

インタビューや質問紙調査を重ねることで、地味で目立たない都市地域の世界的にもユニークな地域の特徴が浮かび上がってきます。理論研究から転じてこのような研究を手がけるようになって15年が経ち、調査を重ねると次々に新たな発見がありわくわくしています。皆さんも、社会学を学んで、一見当たり前の日常のなかに隠れている宝物を探す旅に出てみませんか。(写真は豊田市東山地区秋祭りで手作りの神輿を引く子供たち)

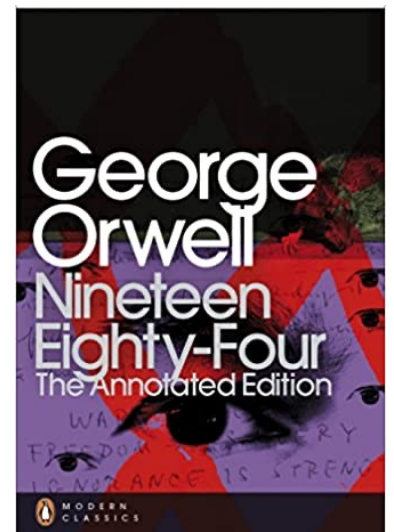
分野・専門紹介—File77

英米文学を読む

分野・専門名：英米文学

英米文学研究室では、イギリス・アメリカの作家による小説や詩、劇の台本などの文学作品を研究の対象としています。授業の内容は様々で、作品自体の研究に加え、文学史や文学理論の授業も開講されています。授業の形式としては、座学を中心に知識を学ぶ講義形式と、学生が主体となってテキストについて発表・議論を行う演習形式の二種類です。これらの授業を通して英米文学に関する基礎知識や作品の研究方法について学んだ後、一冊の本を題材に卒業論文を書きます。

私はジョージ・オーウェルの『1984年』について卒業論文を執筆しました。



この作品では、ビッグ・ブラザーという人物に支配された社会が描かれています。私はその中でも、最初は主人公にとっても近い視点から物事を描写していた物語の語りか、作品の最後では主人公から離れ、客観的な立場からの語りに変化していることに疑問を持ちました。そして、登場人物たちの身体に関する描写に注目し、身体と支配の関係を明らかにすることで、その理由について考察を行いました。

英米文学に限らず、これまで小説を読んでいて、「なぜか引き込まれる」「なんとなく不気味」というような感想を抱いた経験がある人は少なくないと思います。その感想から一歩踏み込んで、作品の何が読者を惹きつけるのか、テキストを分析することで明らかにするのが文学研究です。そのために、単語一つでさえも疎かにせずテキストと向き合い、自分なりの答えを探します。私はこの研究室での学びを通して、文学作品の魅力について、様々な視点から考察し自分の言葉で他人に伝える力を身につけることができたと思っています。(山崎 果穂・学部4年)

分野・専門紹介—File78

映像学への招待

分野・専門名：映像学

皆さんは「映像学」という専門名を目にするごどのようなイメージが浮かびますか。「映像を作ること」でしょうか。または漠然と「映画批評」のようなイメージを持つ方もいるかもしれません。

勿論多くの学生がここで映画について研究しています。しかし、「映像」はより広い意味を持つ言葉です。テレビや映画以外にも、パソコンのモニター、スマートフォン、ユーチューブやネットフリックスの動画、電車によく見る短いCMも映像の一種です。



時代によって映像の見方も変わってきました。このように映像は、同時代を映し出す文化とも言えます。

映像学では映像を媒介として、文化や社会への様々な視点が得られます。そのために広く人文系の理論体系(モダニティ、ジェンダー論など)を通じて映像を分析します。さらに、映像をとりまくオーディエンス(観客、映画祭、ファンダムなど)や社会・政治的な環境(トランスナショナル、トランスメディア、映画産業)を考察することで、より深く理解できます。映像が私たちの日常の一部になっている今の時代に、映像を理解することは、私たちの日常生活だけでなく、私たちの未来を理解する鍵となるでしょう。

名古屋大学の映像学分野・専門は東アジアの映画を中心に研究している人が多くいます。豊かな経験と実力を兼ね備えた先生方と皆さんの先輩が誠意を持って皆さんをサポートします。カンファレンスを通じて国際的な視野も得られます。ちなみに私はアニメのメディアミックスと製作委員会に関して研究しています。

映像学で世界を捉える眼を養ってみてはいかがでしょうか。

(田 泰昊[ジョン テホ]・博士後期課程3年)

最近の文学部

春休み突入!

1月末から、レポート、試験、4年生は卒論口述試験と、怒涛のような数週間でしたが、それも終わり、文系キャンパスには東の間の平穏さが訪れています。4年生にとって卒業旅行や送別会で学生生活の総決算の時期のはずだったのですが…教員は来年度から対面授業をさらに増やせるように機材を準備したり、授業方法の模索中です。(YK)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は…名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)